

第53回 国民体育大会
かながわ・ゆめ国体



平成10年秋季大会
10月24日～29日

◇本市開催競技
ラグビーフットボール
(運動公園陸上競技場)

「ゆめ国体 海老名の風に 光る汗」

広報 えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

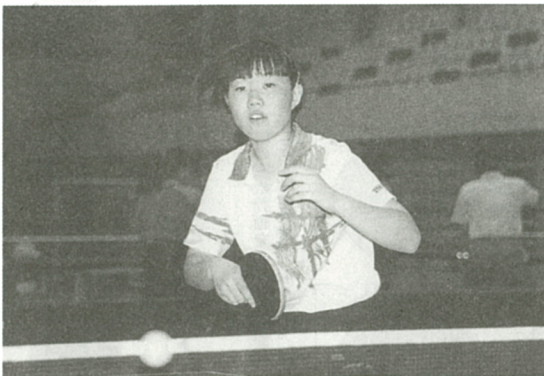
神奈川県海老名市勝瀬175番地

☎ (0462) 31・2111

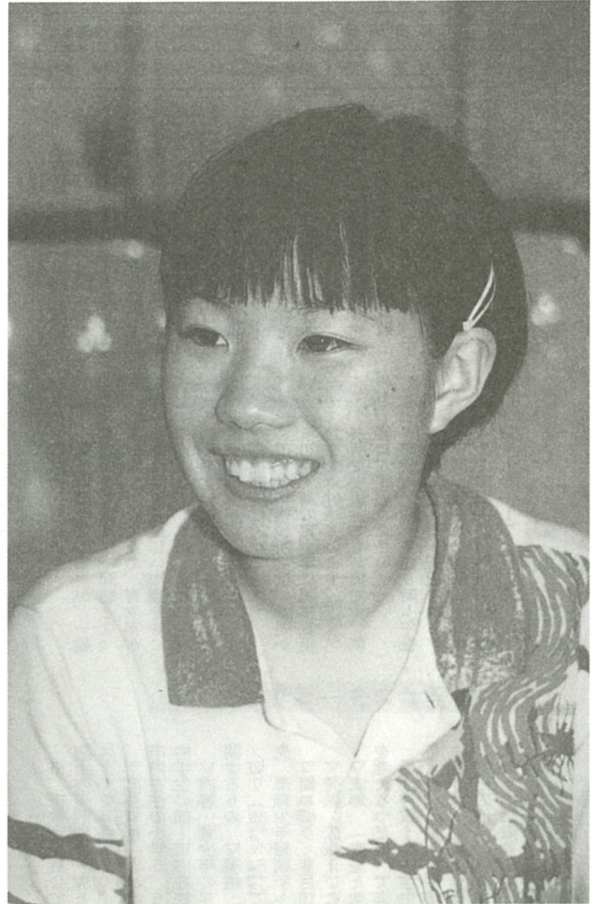
URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

「ゆめ国体」にむけて



0.1秒のひらめき



競技人口25万人、レジャー人口数百万人と
いわれ、幅広い年齢層に親しまれている卓球。
しかし、親しみやすい反面、非常にシビアな
球技でもあります。相手が打った球のコース
と回転を見極め、どんな回転でどのコースに
返球するかを決定する、その間約0.1秒。卓
球が「予測するスポーツ」ともいわれる理由
です。今回は、この卓球の魅力に引き寄せら
れた秦麻奈美さん(はた・まなみ 中新田在
住、中学3年生15歳)を紹介します。

目標はオリンピック

秦さんは数多くの試合に出場する中、13歳以下を対象にした「全国ホープス」団体戦で優勝、また個人戦では14歳以下を対象とした「全国カデット」でベスト8になるほどの実力の持ち主です。

卓球を始めたのは5歳のとき、お父さんに誘われたのがきっかけでした。「始めた頃のことは覚えていません。小さいときはお父さんついで、よくお父さんに連れられて練習に参加しました。最初は球拾いから始めた練習も、今では毎日3時間のハードスケジュールです。「きついな」と思ったことはないです。走るのも好き」と笑顔で語ります。

試合観戦をしていると、決め球の応酬がものすごい速さで展開していて、よくあのスピードに反応できるなあと思わせます。が、「卓球は瞬間で戦法を組み立てます。構えたときにひらめくんです」。反射神経だけでは相手の作戦に対応できないそうです。「常に頭で考えてプレーします。それに、試合に熱中しているときは、周りで見ているときより、ボールは遅く感じるんですよ」とプレーヤーの視点で語ります。また、「もっとたくさんの人に卓球をプレーして欲しい。そしてその楽しさをぜひ知って欲しい」とのメッセージも。

好きな卓球選手は「中国の鄧 亜萍(トウ アヒョウ)。卓球は長身が有利なのに、小柄な体格を動きでカバーしている姿が何となく自分に似ていて好き。自分もそんな選手になりたい」。

6歳違いの妹、由利香さん(小学3年生9歳)も同じクラブで練習中。「仲は良いですよ。妹は自分の同年齢の時より強いかな。これからもっと強くなると思う」と冷静な判断。将来はダブルスなんてどう?の質問に「組んでみたいですよ」と姉妹ダブルス誕生の予感も。

目標は日本代表でオリンピックへ行きたいと頼もしい発言。「もし出られたらですけど。それに日本の代表として行くからにはぜひ勝ちたいです」。

非常に負けず嫌いだと言う麻奈美さん。その気持で、目標に向かって頑張りたいと思います。

7月12日(日)は参議院議員選挙です 投票時間は午前7時~午後8時



本木 茉実ちゃん 1歳

お風呂大好きお水も全然こわくないわ。お魚になった私なの。(河原口、本木大一・聡美さんの長女)



塩脇 政宏ちゃん 1歳

僕は食いしんぼうパンザイ!です。何でも食べちゃうぞ。(下今泉、塩脇政治・祐三子さんの長男)



武藤 渉ちゃん 1歳1カ月

ダンスが得意。音楽に合わせて体を動かし、リズムにのるんだ。(門沢橋、武藤孝之・朋代さんの長男)



鍛冶 幸太郎ちゃん 1歳

僕、お母さんとお姉ちゃんが現えないと、すぐ泣いちゃうんだ。(東柏ヶ谷、鍛冶一美・幸子さんの長男)

まんまる赤ちゃん

▼おはなしの世界を楽しむ

市図書館・有馬図書館では、未就園児と保護者対象の“母と子のおはなしひろば”を、月1回開催中です(6月12日、有馬図書館で撮影)。



フットピックス

▶本大会に向けリハーサル

5月31日、第34回全国身体障害者スポーツ大会「かがわ・ゆめ大会」のリハーサル大会が、横浜国際総合競技場で開催され、市の代表が出場しました。



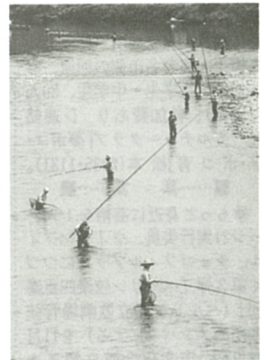
▶市の花さつき一堂に

5月30・31日市役所ロビーで、第18回さつき展が開催され、見事な色とりどりのさつきが展示されました。



▼アユ釣り解禁

6月1日から、相模川でのアユ釣りが解禁に。太公望が思い思いに釣糸を垂らしていました。



▶ゴールめざしてがんばれ

6月7日、座間市入谷小学校校体育館で、海老名市・座間市の2市合同身体障害者運動会が行われました。



▶交通事故ゼロを願う

交通事故を未然に防止するために、市内888カ所のカーブミラーの清掃と、破損状況の調査が行われました。



今月のプロフィール

技術より根気が大切



5円玉で二重塔作成 中島 俊夫さん

「5円玉細工に特別な技術はいらないと思う。やっぱり、技術より根気が大切ですね」と話すのは、中島俊夫さん(中野在住・50歳)。5円玉約3100枚で二重塔(高さ5m、幅36cm)を作りました。中島さんは、一般の住宅などを手がけている大工さんで、二重塔の制作は趣味のひとつ。「一度に根を詰めたりせず、毎日1、2時間こつこつと続けていますよ、そのほうが長続きするんだよなあ」と中島さん。そのペースで約3ヶ月間かかって完成したそうです。この二重塔は2作品目。最初の作品は七福神の宝船を模した帆船で、みやげもの屋などで5円玉細工を自にしたとき、これなら自分でも出来そうだと思ったのがきっかけとか。基本的にすべて自分流。作業工程は、まず木組みを作

り、その木組みに5円玉をしばり付けていく。5円玉同士は自立できないよう金色の細い針金でしばり、アクセントに太鼓鉾で飾り付けしてあります。苦労した点は?との問いかけに、「屋根のくぼみを出すところ。木組みに工夫が必要でした」。出来る限り忠実に再現したいという、そのあたりに中島さんのこだわりを感じました。「5円玉の持つ金色の輝きが、完成した作品の迫力にもつながる」と中島さん。変色を防ぐため、手作りのケイスに入れてできるだけ空気に触れないようにしておくのが、輝きを保つ秘訣。また、より輝きが持続するよううに5円玉の表面に油を塗ってみたりしたそうです。中島さんの自宅には、木彫りの布袋様やクラシックカーなどが飾られており、趣味の広さを実感しました。これからも手作りの良さを生かした作品が次々と生まれてくることでしょう。

何かに打ち込む姿というのは「美しい」といわれますが、それがスポーツの場合「さわやかさ」が加わると思えます。今回取材した

編集後記

奏さんも「美しく・さわやかな中学生でした。本格的な夏に向け、僕もスポーツで「さわやかさ」を表現したいものです。(大)